



農林水産部で働く技術職(農業土木)の魅力

～沖縄の農業を支える農村インフラ整備のプロフェッショナル～

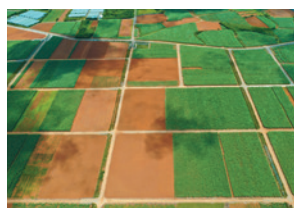
技術職(農業土木)とは

技術職(農業土木)は、生命を支える「食」と安心して暮らせる「農村環境」を未来の沖縄の子どもたちに継承するというミッションをもち、農業の生産性向上や農村地域の活性化に寄与すべく、業務に取り組んでいます。

具体的には、農業生産基盤を整備することによる農業の成長産業化や、頻発化・激甚化する災害に備え、老朽化した農業水利施設を更新することによる農村の強靱化に取り組んでいます。また、多面的機能を発揮する沖縄の農村に、多様な人が住み続けられるよう、各地域の特性や資源を活用した農泊や六次産業化、農福連携等を推進しています。



農福連携



農地の大区画化(宮古島)



六次産業化



かんがい施設の整備(石垣島)

大規模プロジェクトに従事

技術職(農業土木)が担う業務は多岐にわたりますが、現在、宮古島と石垣島で進められている大規模プロジェクトにも携わっており、現場の最前線で活躍しています。

宮古島(宮古伊良部農業水利事業)では、島全体に必要な農業用水を確保するため、2つの「地下ダム」を建設中であり、その他に揚水機、用水路等のかんがい施設を整備し、農業用水の安定供給を図り、農業生産性の向上及び農業経営の安定化を目指しています。

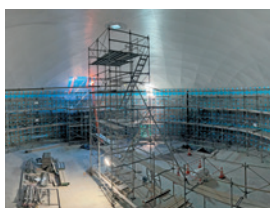


地下ダム(仲原)



トンネル(NATM工法)

また、石垣島(石垣島農業水利事業)では、老朽化したダムや頭首工などの農業水利施設を更新するとともに、新たに石垣島北部・西部地域へ農業用水を供給するため、配水池や揚水機場等のかんがい施設を整備しています。



配水池(桃里)



揚水機場(大浦)

職員の業務内容

先ほど紹介した大規模プロジェクトに従事し、農業水利施設を建設する事業所で働く職員の業務内容を簡単に紹介します。

農業水利施設を建設するためには、必要な地質や水量の調査を行い、現場条件を把握した上で、施設を設計します。職員自ら調査や設計を行うのではなく、地質調査業者や設計コンサルタント業者に業務を発注します。そして、経済的かつ良質な設計成果が得られるように、業者や施設管理者、地元農家等と調整します。



設計コンサルタントとの打合せ



施設管理者（土地改良区）との調整

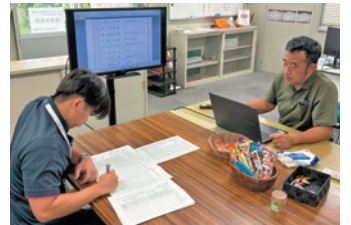
得られた設計成果を基に、積算（施設を建設するために必要な工事費用を算定すること）や工事仕様書を作成し、建設業者に工事を発注します。

発注後は、工期内で工事を完成できるように、業者と工程会議を行います。また、現場で施工状況を確認したり、設計図や仕様書に示す品質や寸法を現地で確認しています。



地下ダムくじら

仕事の魅力



工程会議の様子



現地立会（ポンプ設備）

石垣島の「大高地区」の農地に農業用水が供給され始め、散水式が行われた際には、「畑に農業用水が供用されることで、水管理労力が1/4、水代が約1/14になり、大幅なコスト縮減が見込まれる」と嬉しそうに話す農家の笑顔を見ることができました。このことが技術職（農業土木）の仕事の魅力の一つと言えます。また、最前線である沖縄の農村地域に直接赴任し、その地域で育まれてきた文化や歴史、自然を肌で感じながら、豊年祭やハーリーに参加するなどして、農村地域を農家や関係者とともに、盛り上げていくことにも大きなやりがいがあります。



散水式でカチャーシーを踊る出席者



地域の祭（水まつり）



職員の声

「元気がいっぱい、誇りをもって、前向きに！」

（宮城 もも）

私は入局して2年目になりました。国の事業を進める責任は大きいですが、その分やりがいも大きく、新しい発見の毎日です。担当する業務では、机上の仕事ばかりではなく、実際に現場に足を運び、農家さんや地域の方々と話しながら仕事を進めるので、コミュニケーション能力も必要だと実感しています。また、工事現場では、図面が施設として建設される過程を間近で見ることができると本当に面白いです。地下ダムは地図には残りませんが、農家の皆さんの記憶に残り、宮古島の未来の農業を支えるという誇りを持って、これからも頑張りたいと思います。

『大変さもある。でも、ここでしか味わえない日々がある。』

（取淵 竜馬）

現場で責任ある仕事に取り組み日々は決して楽ではありませんが、離島ならではの自然と文化に囲まれた暮らしが待っています。石垣島では竹富島や西表島など離島めぐり、宮古島では「宮古ブルー」の海でマリンスポーツを満喫。離島と聞くと僻地のイメージがありますが、家電量販店もあり生活環境は充実。さらに、世界有数のダイビングスポットや満天の星空観測といった自然の魅力も。離島手当や住居手当で物価の高さもカバーでき、仕事とリゾートライフを両立できます。



マンタとの遭遇（石垣島）



宮古ブルー（宮古島）



満天の星空観測（石垣島）

特集 多良間島でも国営かんがい排水事業が始動！

(令和8年度)

1. 多良間島の状況

多良間島は、宮古島と石垣島のほぼ中間に位置し、さとうきびを中心に、かぼちゃ等を組み合わせた畑作経営のほか、飼料作物を栽培し肉用牛を飼養する畜産経営が展開されています。



しかし、島には河川がなく、農業用水は主に降雨に依存しているため、生産性が低い不安定な農業経営を余儀なくされており、農業振興の妨げとなっています。

2. 事業化への取組

多良間島において、畑地かんがい施設を整備し、農業用水を確保することにより、農業生産性の向上と農業経営の安定化を図るため、沖縄総合事務局では、地下水の観測や施設的设计等、国営かんがい排水事業を実施するための各種取組を実施してきました。

職員による取組例



出前授業の様子



推進協議会の様子

3. 事業効果とその発現に向けた取組

国営事業による農業用水の安定供給や畑地かんがい施設の整備により、①さとうきびの単収増加により少ない栽培面積での目標生産量の達成や、②かん水時間の節減に伴う余剰労働時間の創出による収益性の高い園芸作物への転換等の効果が見込まれ、地元の方々もこの事業に対して大きな期待を寄せています。



多良間島の全景

これらの効果を発現するには、事業により造成される施設を適切に維持管理し、営農実証を通じて栽培技術の定着を図るための営農推進活動が重要です。沖縄総合事務局として、施設の維持管理や営農推進の体制構築に向け、今後とも沖縄県や多良間村等の関係機関と協力しながら、それに必要な取組を継続的に実施していくことにしています。

【国営事業の概要】

◇受益面積：758ha (畑)

◇主要工事：

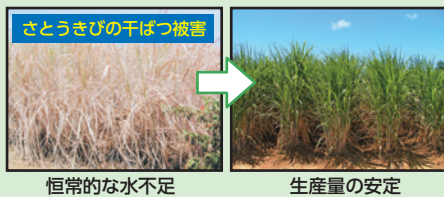
- (1) 集水池 (新設) 3か所
- 集水池 (改修) 2か所
- 既設利用 5か所
- (2) 地下水取水施設 (井戸) 20か所
- (3) 揚水機場 (ポンプ場) 10か所
- (4) ファームポンド (貯水タンク) 1か所
- (5) 用水路 24km
- (6) 水管管理施設 一式

発現が見込まれる事業の効果

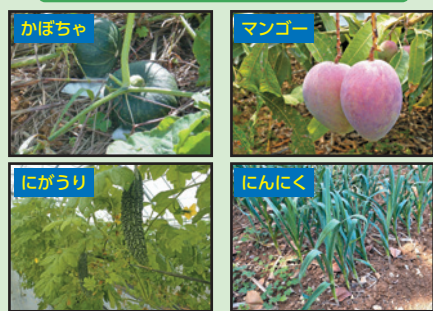
①かん水作業の省略化



②生産量の安定



③園芸作物への転換



園芸作物 (露地栽培・施設栽培) への転換・拡大

事業に期待する地元の声



多良間島で農業を営み、将来の夢を語る 吉村俊氏

地域おこし協力隊員として多良間島に赴任し、多良間島の営農実証ほ場の管理等に従事してきました。島で新規就農し、令和7年度からかぼちゃ55アール、島らっきょう15アールなどを栽培しています。

この度、国営事業が始まることで、さとうきび以外の園芸作物の栽培にも取り組めるようになるので、「多良間島の農業が変わるのでは」と大いに期待しています。事業を契機にスマート農業を推進し、将来は民宿やカフェを手がけて多良間島ならではの「農泊」も展開したいと思っています。